

類と疾病の性質とに因つて斟酌しなければなりませんが一般に始めは成る可く少量にして一回三十瓦位から始めて一日四百瓦に至つて止めなければなりません。

第六、温泉の温度は病症に因つて稀に高度のものをを用ゐることがありますが一般に華氏九十度より百度を超えない所が適度で若し是れ以上に熱かつたら暫く放冷して冷してから用ゐる様にして、決して水を加へて稀薄にしてはなりません。

第七、老人、小兒、妊婦などを湯治に連れて行つた時は能く注意して入浴を加減しないと却つて病勢を募らせたり又は他の害を招くことがあります第八、湯治中は過食、暴飲過房其他の不衛生あるべからざることは説明する迄もありませう。その他適當な醫士に依頼して常に其指揮を受けて誤のない様にしなければ折角の湯治も何の甲斐なきことになりませう。

おはなし

筑紫の姫

四、蝦 蟇

「次郎さん早くおいで、眞黒な汚い蝦蟇が居るよ面白いから殺してやらうと」太郎は棒をもち次郎は石をもつて殺そうとして居るところへ横手の方から車を曳いた驢馬が來てあぶなく蝦蟇を踏み殺しそうになつたところが、驢馬は驚いてこれをよけて通りました。太郎は之を見て棒を投げ捨て、次郎に、「われ／＼はとんだ事をするところだつたのね、驢馬はわれ／＼よりも情深いぢやありませんか」と言つて殺す事をやめてしまひました。

五、狼と羊

眞白な毛をもつてよく太つた子羊が川で水を飲んで居ると、狼が來て、「貴様はいつでも水を濁して太い奴だ、食つてしまふぞ」ととなりますから、羊は大きに恐縮して「狼閣下そんな無慈悲な事を仰つてはいけません、私はいつでもあなたの所よりも遠方へ飲むのです」「ナニ無慈悲な事! お前の話で見るとおれは無慈悲な者だな、よし、水を飲む事は許そうと思つたが其侮辱は堪忍ができない、食つてしまふ」